

まちづくり交付金 事後評価シート
海峡パノラマ地区

平成20年12月

山口県下関市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山口県	市町村名	下関市	地区名	海峡パノラマ地区		面積	163.0ha					
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	4,258(百万円)	国費率	0.378				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 基幹事業 公園(火の山公園)、高質空間形成施設(駅前景観形成事業、モニュメント設置)、地域生活基盤施設(歓迎塔)、高次都市施設(地域交流センター(細江3丁目)) 提案事業 ロープウェイ運転再開実験、オープンカフェ開設実験、地域交流センター、事業効果測定調査										
	当初計画から削除した事業		事業名 削除/追加の理由 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響										
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(竹崎公園)、高質空間形成施設(夜間景観形成事業)、高次都市施設(地域交流センター(市民活動支援センター事業))		公園(竹崎公園):公園の高質化により都市景観の向上とにぎわいの創出を図るために追加 高質空間形成施設(夜間景観形成事業):魅力ある夜間景観を形成し、夜間観光客の誘致を図るため追加 高次都市施設(地域交流センター(市民活動支援センター)):ボランティアや市民活動を側面から支援する場として、情報や交流の場を提供するため追加			高質空間形成施設(夜間景観形成事業):目標を定量化する指標に影響するため、新たに指標として夜間観光客数を追加した。 高次都市施設(地域交流センター(市民活動支援センター)):目標を定量化する指標に影響するため、新たに指標として市民活動支援センターの利用者数を追加した。					
		提案事業	なし										
	交付期間の変更	当初変更	平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	観光客数(下関駅地区)	人/年	83,000	H15	83,000	H20	104,879	120,173	○	あり なし	人工地盤舗石改修、歓迎塔整備、竹崎公園の整備により都市景観の向上が図られ、ライトアップ整備との相乗効果により観光客のイメージアップにもつながり、観光客数の減少を抑制した。	平成22年7月
	指標2	観光客数(唐戸地区)	人/年	3,141,000	H15	2,500,000	H20	2,784,141	2,725,317	○	あり なし	下関駅地区・唐戸地区・火の山地区における広域的な観光拠点整備により観光客が定着し、減少傾向に歯止めをかけることができた。	平成22年7月
	指標3	観光客数(火の山地区)	人/年	248,000	H15	320,000	H20	415,293	479,853	○	あり なし	火の山の麓から山頂までの間にみもすそ川公園、ロープウェイ、火の山公園と観光ルートを確立し、地区の魅力を強化したことにより観光客数の増加につながった。	平成22年7月
	指標4	観光客の満足度	%	79.1	H15	85.0	H20		84.8%	△	あり なし	● 目標にわずかながら達していないが、計画当初よりも上回る満足度となっており、各事業による間接的な効果があったと考えられる。	平成22年7月
	指標5	観光関連施設利用者数(海峡ビュー下関)	人/年	39,467	H15	36,500	H20	37,520	37,368	○	あり なし	火の山の麓から山頂までの間にみもすそ川公園、ロープウェイ、火の山公園とそれぞれ魅力を創造することで観光ルートを確立し、地区の魅力を強化したことにより観光客数が増加し、利用者数の減少抑制につながった。	平成22年7月
	指標6	公民館・文化ホールの利用者数	人/年	103,000	H15	200,000	H20		250,239	○	あり なし	利用者の意見とニーズを反映した施設整備を図り、利用意欲と利便性を向上させるとともに、複合して整備される図書館との相乗効果で利用者が増加すると考えられる。	平成23年7月
	指標7	市民活動支援センターの利用者数	人/年	311	H16	7,000	H20		18,764	○	あり なし	既存施設を交通利便性に富む駅前へと移転拡充したことや、ワークショップにより市民の要望等を取り入れ、利用者の立場から利用しやすくなるセンター整備を行ったことが利用者数の増大につながった。	平成22年7月
	指標8	夜間観光客数	人/年	1,397	H15	2,300	H20		3,171	○	あり なし	夜間景観整備事業によるライトアップ整備とあわせて、火の山の観光整備やみもすそ川公園のモニュメントライトアップにより、新たな回遊性の高い観光ルートが生まれ、夜間観光客数の増加につながった。	平成22年7月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	観光関連施設利用者数(海峡ビューしものせき+火の山ユースホステル)	人/年	42,781	H15			42,704	43,060			火の山の麓から山頂までの間にみもすそ川公園、ロープウェイ、火の山公園とそれぞれ魅力を創造することで観光ルートを確立し、地区の魅力を強化したことにより観光客が増加し、利用者数の減少抑制につながった。	平成22年7月
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動支援センターの整備の際、市民参加のワークショップを行ったことで、市民活動支援センターのPRにもなり、登録するボランティア団体が増えている。 平成19年にライトアップ点灯式を行ったことで、多くの市民参加があり、新聞等にも大きく取り上げられ、本事業の広報周知が図られた。また、観光団体による「夏のしものせき観光モデルコース」としてライトアップ施設めぐりが提案され、関門海峡夜景ガイドの作成、夜景観光バスの運行といった事業が展開され、夜間滞在型観光の推進に寄与している。 下関駅周辺で人工地盤に関するアンケートを行った結果、「きれいに整備されたと感じられる」という回答率が6割以上と高くなっており、人工地盤の整備による効果があった。 												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況									今後の対応方針等	
	モニタリング	事業の進捗状況や成果の発現状況を確認し、指標の見直しを行うとともに、厳流島ライトアップの都市再生整備計画への追加等を検討し、有識者からの意見聴取を行った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									● 当初はNHK大河ドラマの影響や海響館などの整備により、効果が特殊値となっていることから、目標値の下方修正はやむを得ない。今後の対策として、減少率をどうやって押さえつけていくかが課題となる。また、厳流島のライトアップは平成20年度に整備する。	
	住民参加プロセス	市民活動支援センターの整備について、市民参加のワークショップで検討。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									● 今後は、運営面についても、市民協働参画審議会の意見等を参考に、市民の意見を取り入れていきたい。	
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											

様式2-2 地区の概要

海峡パノラマ地区(山口県下関市) まちづくり交付金の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 交流拠点の整備等による、市民および来訪者(観光客)がともに楽しめるまちづくり 目標1: 下関駅前の修景整備や中心市街地に点在する歴史的・建築的に重要な建造物等へのライトアップにより、魅力ある景観を創出する 目標2: 海峡あいらんど21地区において都市再生のための交流施設の整備により、地域の交流人口の拡大を図る 目標3: 瀬戸内海国立公園に位置する火の山周辺の歴史的・自然的な資源を活かした観光拠点の整備等により、来訪者(観光客)の増加を図る	観光客数(下関駅地区)	単位:人/年	83,000	H15	83,000	H20	120,173	H20
	観光客数(火の山地区)	単位:人/年	248,000	H15	320,000	H20	479,853	H20
	公民館・文化ホールの利用者数	単位:人/年	103,000	H15	200,000	H20	250,239	H20
	市民活動支援センターの利用者数	単位:人/年	311	H16	7,000	H20	18,764	H20
	夜間観光者数	単位:人/年	1,397	H15	2,300	H20	3,171	H20



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・人工地盤舗石改修や歓迎塔の整備を行い、「玄関口として感じがよい」との街頭アンケート結果もあることから、美しい景観整備が図られた。 ・火の山の麓から山頂までの間にももす川公園、ロープウェイ、火の山公園とそれぞれ魅力を創造することで観光ルートを確立し、地区の魅力強化したこと観光客が増加し、利用者数の減少抑制につながった。 ・地域交流センター(市民活動支援センター)の整備により、利用者が増加し、市民の活発な交流が促進されつつある。今後、地域交流センター(細江3丁目)の整備により一層の市民等の活発な交流が促進されると思われる。 ・ライトアップ等下関らしさを表現し、魅力ある夜間景観を創出することができた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に施設の活用を促すため、情報提供に努める必要がある。 ・定期的な利用者アンケート調査等のモニタリングを行い、有意義なイベントや企画等を立案しソフト面の充実を図る。 ・点在するライトアップ施設を有機的につなぐライトアップ整備を実施し、より波及効果の高い夜間景観形成を推進する。 ・来訪者が快適に過ごせるように、休憩施設を設ける必要がある。 ・施設の更新等を行い、JR下関駅前の更なる景観整備に努める必要がある。 ・アンケート調査結果から、駐車場の出入り口がわかりにくいなどの声があったため、わかりやすい案内や誘導を行い、回遊性を向上させる。 ・下関駅地区の観光資源を活用し、唐戸地区との回遊性を向上させる。 ・今回は点的な整備をしているが、駅前をつなぐ線的な整備、あるいは面的な整備を行うことを検討する。 ・門司港とのさらなる連携を検討する。